

1. 授業の概要(ねらい)

万葉集を読みます。

万葉集は年代の判明するところでは、およそ舒明朝(629~641)から淳仁朝の天平宝字3年(759)までの約130年間の歌を集めた、我が国に現存する最古の和歌集です。この間には大化改新・壬申の乱・大宝律令の制定・奈良遷都・大仏開眼など、さまざまな歴史的事件があいついで起こりました。万葉集には、そうした時代を背景として生みなされた人々の哀歓が歌い込められています。また、それらの歌を読むことによって、当時の人々の暮らしぶりや文化をうかがい知ることができます。

万葉集にはじめてふれる人、古文はどれも苦手だという人にも分かりやすい授業を心がけます。

2. 授業の到達目標

古文の基本を学び、これを人に説明することができる。

万葉集の基礎的事項について説明することができる。

万葉びとの思想や信仰などについて理解し、説明することができる。

以上を到達目標とします。

3. 成績評価の方法および基準

学期末試験(50%)と、平常点(出席状況・コメントシート・短歌クイズ・小レポートなど、50%)をあわせて評価します。

4. 教科書・参考文献

教科書

毎回プリントを用意します。テキストは用いません。

参考文献

多田一臣 『柿本人麻呂』 吉川弘文館

橋本達雄編 『柿本人麻呂《全》』 笠間書院

『セミナー万葉集の歌人と作品』全巻 和泉書院

『萬葉集全注』 有斐閣

5. 準備学修の内容

- ・配付するプリントを授業のあとでよく読みかえすこと。
- ・毎回プリントに記してある「質問」について自ら調べ、考えを深めること。
- ・授業時に紹介する参考文献に目をとおすこと。
- ・自ら疑問を立てて、それについて発展的に考えること。

6. その他履修上の注意事項

出席することが大切です。試験を受けるだけでは単位を取得できません。

授業の終了時には毎回コメントシートの提出があります。

コメントシートには、プリントの「質問」について、答えを書いてもらいます。(評価の対象となる)

また、授業のマナーを守ること。授業時のスマホの使用は不可。

毎回の授業内容は、進行状況により、一部変更することがあります。あらかじめ、ご了承ください。

7. 授業内容

- 【第1回】 万葉集についての説明
柿本人麻呂①(王権の讚美と永遠への願い)
- 【第2回】 柿本人麻呂②(王の交代劇一王の再生)
- 【第3回】 柿本人麻呂③(鄙の女に恋する貴公子の物語—万葉集の貴種流離譚)
- 【第4回】 柿本人麻呂④(愛する女を突然喪った男はどうか)
- 【第5回】 柿本人麻呂⑤(若妻の死と、幼子を抱いて途方に暮れる男を描く)
- 【第6回】 柿本人麻呂の歌集(和歌を文字に記すこと)
- 【第7回】 高市黒人(たけちのくろひと)—旅の詩人の成立(都市と地方)
- 【第8回】 長意吉麻呂(ながのおきまろ)—歌の道化者(ナンセンスなことをうたう意味)
- 【第9回】 和歌とはなにか(神の謎言葉と、神と巫女の婚の関係)・和歌の様式(上下二部構造)
(オンライン授業)
- 【第10回】 山部赤人(聖武天皇の登場と宮廷歌人の活躍)
大伴旅人(世界は空虚であることの認識と人生の哀しみ)
- 【第11回】 山上憶良①(愛苦—愛することは苦しみである)、子愛すること、愛する子を喪うこと(世界は不条理に満ちている)
- 【第12回】 山上憶良②(我らは、それでも、なぜ苦の世界を生きねばならないか)
- 【第13回】 東(あづま)なる地の歌・防人(さきもり)の歌—東国の人びとの哀歓
- 【第14回】 大伴家持①(孤独の発見・和歌における感受性の成立)
- 【第15回】 大伴家持②(自然を美と見ることはどのように始まるか)